

平成24年度 文部科学省委託事業

平成24年度 ICTの活用による学習成果の評価・活用に関する実証研究

学習成果が評価され社会に生かされる

地域教育人材認定モデルの開発

実証研究報告書

平成25年3月

富山インターネット市民塾推進協議会

地域eパスポート研究協議会

はじめに

生涯学習社会の進展のなかで、一人ひとりが、そのライフステージや置かれた状況に応じた学習の機会が得られ、その成果を社会生活や職業生活に生かすことができる生涯学習社会の実現が求められてきている。特に、価値観やライフスタイルの多様化などにより、地域の絆が希薄になってきている今日、個々人が、積極的に社会に参画し、地域課題の解決に取り組みながら、地域コミュニティの活性化や絆作りに取り組む、協働による地域づくりに果たす生涯学習の役割も増してきている。

富山インターネット市民塾協議会では、インターネットを活用した学びと交流の場づくりを15年間に渡り継続し、多様な学びの場の提供とそこに学ぶ方々を中心とした地域の絆づくりを推進してきた。多数の市民が学びをとおして交流を深め、地域参画を進める中で、地域コミュニティの活性化に寄与してきている。

しかしながら、同様に生涯学習や社会教育を推進している地方公共団体やNPOなどの団体も、それぞれの目的に応じた生涯学習をすすめて来ているが、かならずしも連携協働が十分行われているとはいえない。第6期中央教育審議会生涯学習分科会の報告（平成25年1月）にも、多様な主体による社会教育事業の展開への対応のなかで、多くの公共団体では、公民館等の社会教育施設における講座等の実施を中心とした担当部局内で完結した「自前主義」が多く、多様な主体による社会教育事業との連携・協働の必要性が提言されている。

そこで、富山県内で中心的に生涯学習を推進している、富山県民生涯学習カレッジ、富山県公民館連合会、それに、富山インターネット市民塾推進協議会などが連携・協働して、地域で意欲的に生涯学習に取り組む個人々人を対象に、地域社会に参画しさらなる活躍の場を提供する仕組みづくりを試みた。すでに、平成22年度は、生涯学習における学習の質向上に向けたeポートフォリオの開発と活用、平成23年度は学習の成果を発信するための仕組みとしてのショーケースの開発とその効果の検証などを行なってきている。本年度は、これらの成果をもとに、eポートフォリオの活用効果を高める目的で、講座の質向上に向けたティーチング・ポートフォリオの活用効果を検証するとともに、意欲ある学習者を、地域人材として認定し、活躍を支援するための仕組みとして、学習成果の評価の厳密性を高めたショーケースによる評価システムの開発と、社会的通用性をいっそう考慮したeパスポート発給の運用モデルを開発し、試行運用を通じた実現可能性を検討した。

本報告書は、これら実証研究の成果をまとめたものである。本研究にご協力いただいた富山インターネット市民塾、和歌山インターネット市民塾、富山県民生涯学習カレッジ、富山県公民館連合会等、生涯学習関係団体に感謝するとともに、この運用モデルが、今後の生涯学習・社会教育に生かされることを期待したい。

平成25年3月 富山インターネット市民塾推進協議会理事長

地域eパスポート研究協議会代表

山 西 潤 一

目次

1 実証研究の目的と概要	1
1-1 実証研究の背景	1
1-2 実証研究の目的	2
1-3 国内外における学習成果の評価・活用の現状	4
1-3-1 国内における学習成果の評価・活用の現状	4
1-3-2 海外における人材の学習成果の評価・活用の現状	5
1-4 今年度の目標	8
2 実証研究の実施	9
2-1 市民講師によるeポートフォリオ（ティーチング・ポートフォリオ）の活用	9
2-2 学習成果の提示と地域人材としての評価	14
2-2-1 学習成果の提示（ショーケースの作成）	14
2-2-2 地域人材としての評価（体制、評価基準、認定）	17
2-2-3 学習成果を社会に生かす仕組みの構築	20
2-3 実証評価のためのeポートフォリオシステムの開発	29
3 実証研究の評価	34
3-1 eポートフォリオによる学習の質向上の効果に関する分析・評価	34
3-1-1 ティーチング・ポートフォリオの活用効果	34
3-1-2 市民講師のためのルーブリックの開発に向けて	35
3-2 学習成果の評価の社会的通用性に関する分析・評価	38
3-2-1 評価基準の通用性と課題 -ショーケース機能を中心にして	38
3-2-2 評価体制の通用性	42
3-2-3 地域人材認定の通用性	43
3-3 学習成果の活用の促進に関する分析・評価	44
3-3-1 人材の顕在化、活用機会を促進する効果	44
3-4 運用モデルの地域間の通用性に関する分析・評価	50
4 今後に向けて	51
4-1 運用モデル普及に対するニーズ	51
4-1-1 学習者の成果の活用ニーズ	51
4-1-2 地域人材の活用ニーズ	52
4-1-3 市民力活性化へのニーズ	53
4-1-4 各地の生涯学習センター、社会教育施設での活用ニーズについて	54
4-2 運用モデル普及のための提案	56
4-2-1 国の役割、都道府県行政の役割	56

4-2-2 軽費によるシステム導入を支援するクラウドサービス、SaaS化.....	57
4-2-3 導入手引きの作成、サポート人材の育成等、普及プログラムの整備	58
4-3 まとめ.....	63

1 実証研究の目的と概要

1-1 実証研究の背景

中央教育審議会(2008年2月)の答申「新しい時代を切り開く生涯学習の振興方策について 知の循環型社会の構築を目指して」のなかで、多様な学習機会の提供及び再チャレンジが可能な学習環境の整備と、これを産学官が協力して支援する生涯学習推進体制「生涯学習プラットフォーム」の構築が強く求められている。

このような中で、当協議会は富山インターネット市民塾を主宰し、インターネットを活用した学びと交流の学習基盤を構築し、年間約100の学習講座を運用してきた。そこでは、多数の市民が学習をベースに交流を深め、地域参画を進める中で、学びを通じた地域コミュニティの活性化に取り組んでいる。その活動の中で、平成22年度は富山インターネット市民塾の学習プラットフォームにeポートフォリオの機能を実装し、学習者の主体的な学習や学習の持続に向けた自己の内発的動機づけに非常に効果的であることが明らかにされた。

また、講師やアドバイザー、eメンタ等学習支援者にとっても、eポートフォリオの情報を介して適切な支援が行える効果、ジョブ・カードとの連携による可能性、高等学校等のキャリア教育における可能性、生涯学習のベンチマークとしての可能性などが示された(図1参照)。

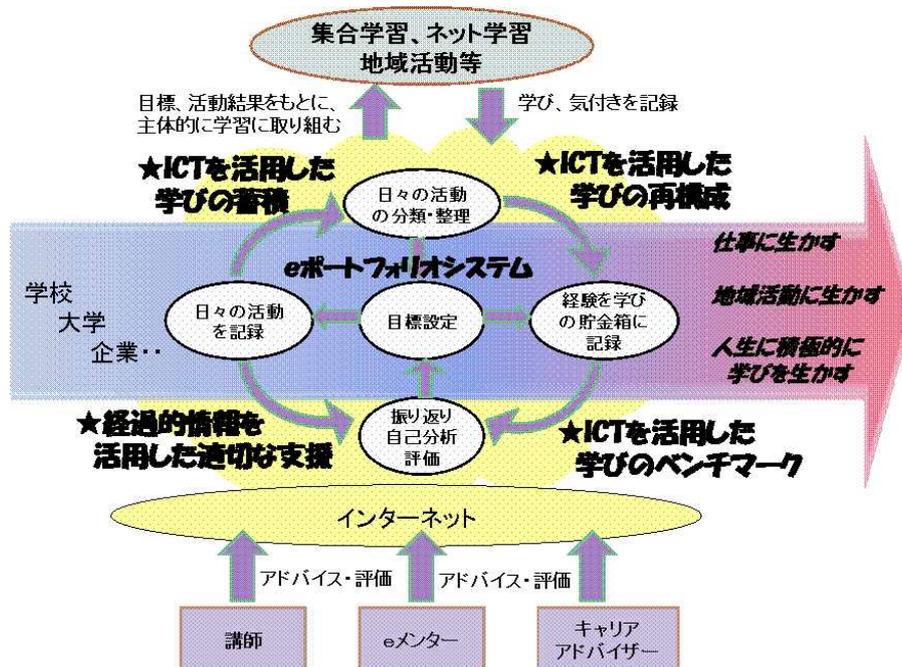


図1 eポートフォリオを活用した学びの蓄積

他方、個の学習や活動成果を、その特性に応じた就業や社会参加に役立てるためには、学校教育等の教育機関と地域の就業支援機関や生涯学習関係機関とのシームレスな情報の接続が重要であり、連携を意識したeポートフォリオの活用可能性や組織的ネットワークの構築などが求められる。

生涯学習と就労が密に関係しているヨーロッパでは、ユーロパス（Europass）とよばれる個人の職歴、学歴、技能、能力を表す証明書が、職業訓練施設や各国に設けられたユーロパスセンター等で認定、発行される社会制度が既に整備され、EU 内のどの国でも記載された技能や資格が社会的に通用する枠組みとなっている。

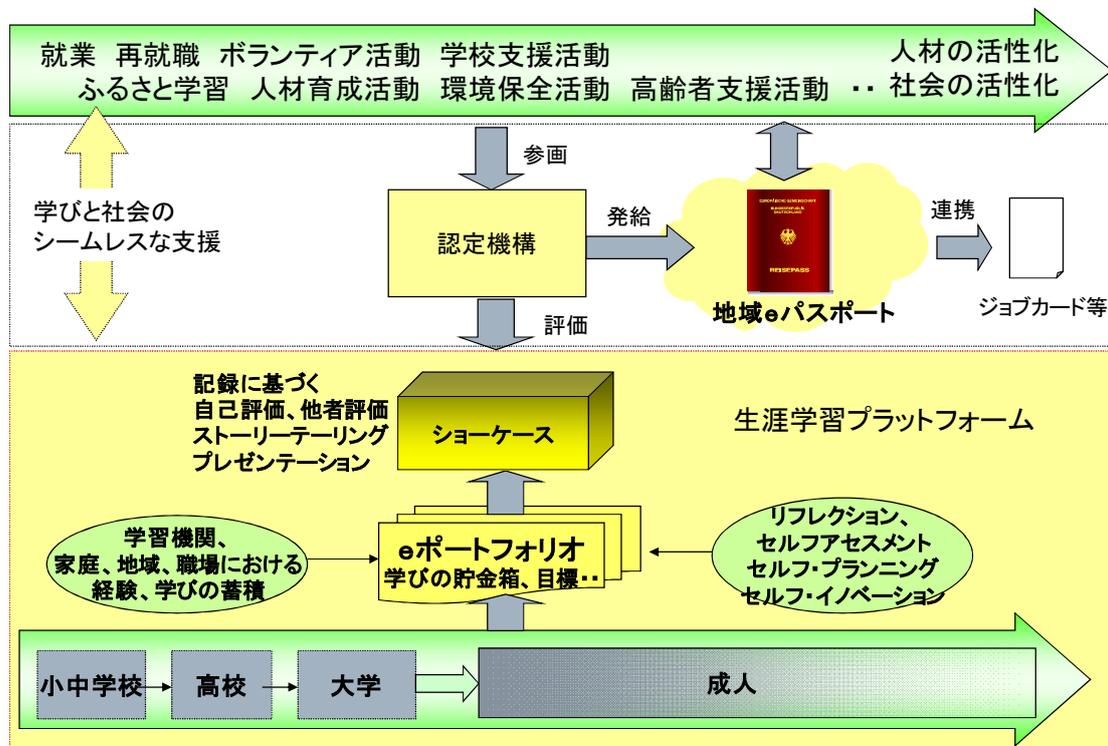


図 2 一人ひとりの学習成果が評価され社会に生かされる地域基盤の目標イメージ

日本でも、このような、個人の学習支援としてのeポートフォリオをもとに社会的認証としてのeパスポート発給のための仕組みづくりの検討が希求され、平成22年度の調査研究により、eポートフォリオを活用した学習の記録と振り返りを通して、主体的な学習や学習の持続への内発的動機づけに非常に効果的であることが明らかにされた。また、平成23年度には、個からの学習成果の発信と、地域人材としての可能性を認めるための評価基準のモデルを開発し、地域の認定組織による評価を試行的に行うと共に、学習成果を生かす社会参加モデルとしての可能性を示した。

1-2 実証研究の目的

これらの実績をふまえ、平成24年度は、学習成果の質の向上を目的としたeポートフォリオの活用効果を深めると共に、学習成果の評価の社会的通用性を目指したショーケースモデル、および第三者評価による地域人材の認定とeパスポート発給の運用モデルを開発し、試行評価することとした。

具体的には、全国に展開するインターネット市民塾の市民講師をモデルとして、ICTを活用したティーチング・ポートフォリオ（eポートフォリオ）の活用と、eポートフォリオをエビデ

ンスとして学習成果や、その学習成果を生かした活動目標および実践力を社会に示すショーケースの作成を促す。そのショーケースについて第三者評価を行い、評価基準を満たすものを市民講師として社会的に認定し、eパスポートを発給する運用モデルを構築・試行評価を行う。これらをふまえて、地域人材が生涯学習の場で生かされるための認定と、運用の普及のための考察を行う（図3）。

なお、実証研究期間後も認定によって、市民講師の活動が社会的にどのように促進されるか、継続的に評価を行う。

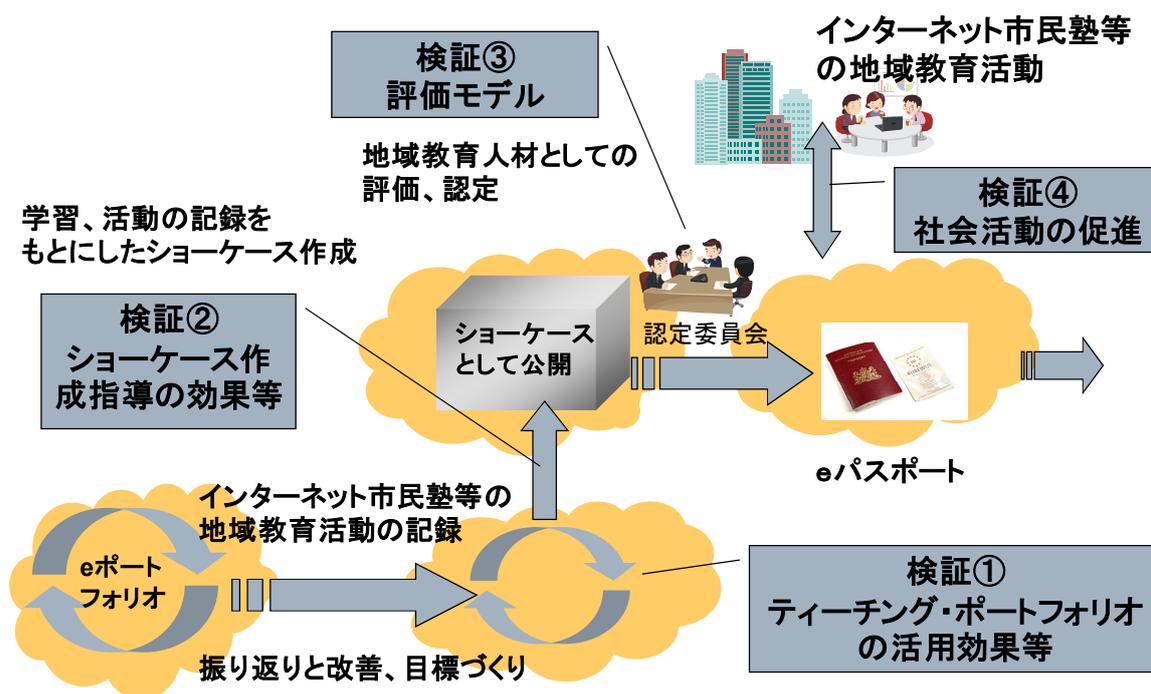


図3 実証研究の枠組み

1-3 国内外における学習成果の評価・活用の現状

1-3-1 国内における学習成果の評価・活用の現状

学習成果の活用を促進する国内の状況を把握することの一つとして、「人材認証制度のニーズおよびマッチングに関する調査研究」が、平成24年度に文部科学省により行われている。

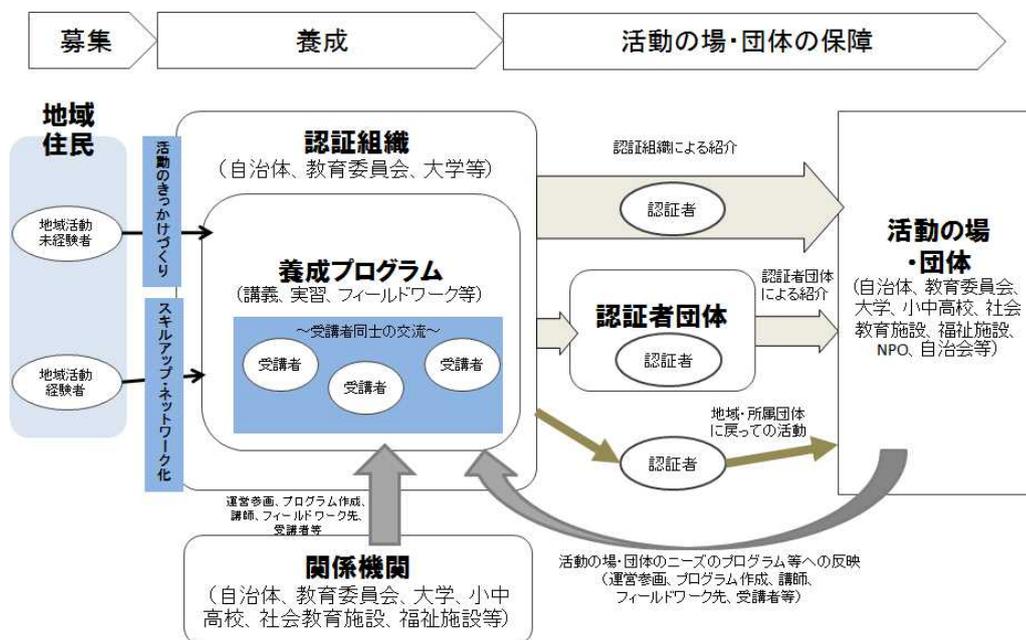


図 4 人材認証制度の活用に向けた全体像（文部科学省）

これによると、自治体、教育委員会、学校、社会教育施設および公益法人等では、全国の 424 組織で何らかの形で人材認証制度を運用しており、それらへのアンケート調査により、回答のあった 331 組織について、人材認証における養成プログラムや、養成後の活動に結びつけるマッチングの実施状況、および活動の場・団体におけるニーズを調査している。マッチング事業は全体の 35%での実施状況となっており、特に、学習成果の活用を促進する機能として、先進事例が参考になる。

表 1 人材認定制度・マッチング事業の先進事例

地域	運営団体	事業化の母体	認証する人材等	マッチングの対象機関等
青森県	県教育委員会	県単独で事業化		学校
秋田県	生涯学習センター	県単独で事業化	地域マイスター	市町村各部門、公民館等
京都市	(財)地域公共人材開発機構	大学、経済団体	地域公共政策士	自治体、企業
足立区ほか	(社)教育支援人材認証協会	大学	子どもサポーターほか	自治体、大学
大分県	NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット	県、大学		自治体
滋賀県	NPO法人環人ネット	大学、自治体	近江環人	自治体
田辺市	市教育委員会	市単独		公民館
栃木県	県教育委員会	県単独で事業化	家庭教育オピニオンリーダー	市町村

このほか、鹿児島市、文京区、中央区、浜松市、宮城県などでマッチング事業が実施されている。

運営母体としては自治体、教育委員会、生涯学習センター等が多い。また、認証者による活動を促進する団体が設立され、マッチング事業を行っている例も見られる。人材の活動の対象とする場として公民館が多い。これらの運営組織では、活動の場となる関係組織を巻き込み、マッチング事業の実効性を高める工夫も見られる（同報告書より）。

マッチング事業の課題も報告されている。「人材認証制度や資格全般の有無が、人材の判断基準にならない」との声や、「資格があるだけでは（安心材料にはなるが）人材の活用の判断にならない」との意見があり、対象者との信頼関係をどのように作るかが重要としている。ただし、活動の場への参画のきっかけとなることは評価されていることから、きっかけづくりと信頼関係構築の両面でマッチングを図ることが効果的と思われる。

また、「認証者に何ができるのかわかりにくい」という声は、単に資格情報を提示するのではなく、活動の実績や取り組みなど、多様な情報を分かりやすく伝えるICTの活用による効果も期待される。

事業を運営する組織自体の人材不足、情報不足も挙げられている。民間企業では、少ない人材で最大限の活動効果を上げることに、ICTがさまざまな形で活用されている。人材や活動の場との情報交流を構築し、日頃から人のなかりを育てていくことに、ソーシャルネットワークなどが効果をもたらす可能性がある。

【参考文献】

平成24年度「人材認証制度のニーズ及びマッチングに関する調査研究」、文部科学省

1-3-2 海外における人材の学習成果の評価・活用の現状

(1) 米国の事例

米国では近年、大学を中心としてeポートフォリオの導入が積極的に進んでいる。その背景には、米国全土をあげての学力向上という教育政策の歴史に加え、他方で、長い大学の発展史があることも言うまでもない。その中でも、近年は、大学の学士課程の重要性について、全米大学・カレッジ協会(AAC&U)は、2002年の『より大いなる遺産』と2004年の『バカロレア(学士)課程の質の責任を取る』のレポートに続き、『グローバルな世紀の学習』というレポートを作成している。そこでは、カレッジの学士課程における全米共通の成果目標として、「重要な学習成果」(The Essential Learning Outcomes)を呈示し、高校等の学校段階から、大学の学習を通してその高い水準を維持しながら、学生は、次の能力を得ることで21世紀の挑戦に備えるべきである、としている。

その成果は、第一に、「人文や自然科学の知識」であり、第二に「知的・実践的スキル」、第三

に、「個人的・社会的責任」の力であり、ローカル・グローバルな市民としての知識や参加、多文化の知識や能力、倫理的理性や行為、生涯学習の基礎とスキルを身につけることを求めている。そして、最後に、「統合的で活用的な学習」の成果として、新たな状況や複雑な問題に対し、知識やスキルの活用や参加を通して、一般的かつ専門的な研究をまとめ、発展させる学習を行うことを求めている（立田慶裕、2013）。

特に、重要な学修成果として（大学生は学問を修める力を身につけるといって学修という表現が日本では高等教育について用いられる）、ローカル・グローバルな市民としての知識や参加、生涯学習の基礎とスキルが大学生にも求められている点が注目される。

（２）ヨーロッパの事例

他方、ヨーロッパでは、EU を中心として、eポートフォリオを用いた学習においても、大学や全国機関による学習成果の評価のシステムについての実践や実験プロジェクトが行われている。

その代表的なものが、「Europortfolio: a European Network of Eportfolio Experts and Practitioners” / EPNET」であろう。これは、2013年1月より2015年12月までの3年間のプロジェクトであり、参加国は、ザグレブ(大学)、フランス(NPO)、イギリス(NPO,国家機関)、ポーランド(大学)、オーストリア(大学)、デンマーク(大学)、スペイン・カタローニャ(大学)、民間NPOのTLTグループである。

ユーロポートフォリオの目的は、ヨーロッパ地域における生涯学習の現実化への貢献にある。ポートフォリオを、リフレクティブな学習や実践を支援する手段として、また同時に教育と雇用に関わるすべての関係機関にわたる透明性と信頼を提供する手段として利用しようとするものである。

このプロジェクトは、学習共同体のポータルサイト（Learning Community Portal）をeポートフォリオの実践やテクノロジーのデータや資源を公開し、共有し、レビューするスペースとして、ヨーロッパの専門家や実践家の共同体を構築することで達成される。ヨーロッパや米国、オーストラリアの指導的な専門家や実践家との協力によって、このプロジェクトは、eポートフォリオの実践、枠組み、ポートフォリオプロジェクトの母体、イノベティブな実践事例、オープン化した教育資源（OER）や実装事例、開発のガイドラインの事例といった一覧表を生み出すことができる。

eポートフォリオの専門家と実践家のネットワークにより、EUにおけるeポートフォリオの先端的事例が共有され、EU参加国の教育指導者や行政担当者が活用できるようになるだろう。

このプロジェクトの目的と目標は、eポートフォリオの領域における次の4つのセクターから、専門家や実践家のヨーロッパ協同ネットワークを作ることにある。その4つとは、高等教育、職業教育訓練、雇用、生涯学習である。対象となるグループは、eポートフォリオの専門家と実践家、政策担当者、そしてグローバルなeポートフォリオコミュニティである。

プロジェクトの主要な成果としては、以下の6点である。

- (1)国やセクターを越えた関係者のネットワーク、
- (2)e ポートフォリオのインターネットの一覧や重要なモデル
- (3)各国による研究と実践の報告
- (4)学習コミュニティから生まれる各種生産物：ガイドや政策事例等
- (5)エビデンスに基づく e ポートフォリオの枠組み
- (6)新たな e ポートフォリオプロジェクトの生成や先端事例とネットワーク

(3) 英国の事例

上記プロジェクトの事例としては、フランスの NPO による e ポートフォリオの国際会議報告 ePort Forum や、英国の PDP(自己開発の計画、Personal Development Planning/Planner)があげられる。PDP は、全英の機関として、成果記録センター(Centre for Recording Achievement, 以下 CRA)を設置し、全ての大学の学生個別の学習や継続的なキャリア開発を支援することを目的に、a)自律的な学習者に必要な能力の育成を支援するツールとなること、あるいは、b)学生の雇用適性(employability)の向上を支援するツールとなることが期待されている(加藤かおり、2012)。

また、CRA は全英のネットワーク機関であり、成果やアクションプランの過程の記録によって、「学習を改善し、教育および雇用を通して前進するための重要な要素であるという認識を深めること」を目的とする。その主な活動は、「PDP/e ポートフォリオや雇用適性イニシアティブの実践を、専門的な知識やサービスの提供をもって支援すること、それら実践の評価を行うこと」、また、優れた実践例を「成果記録の過程についての理論的な理解や実践的な方法を洗練させていくためのエビデンスとともに普及すること」にある(加藤、同上)。イギリスの大学では、この PDP が実質的な学修成果の評価と記録の機能を全国的に果たしているのである。

同様の事例が、上記のプロジェクト参加国の各大学でも行われ始めているが、その背景には、2008 年に策定されたヨーロッパ資格枠組みの提言と展開がある。

【参考文献】

立田慶裕「大学と社会を結ぶ e ポートフォリオ：知識のフローツールとしての e ポートフォリオ」『文部科学教育通信』No313,2013

加藤かおり「大学と社会を結ぶ e ポートフォリオ：イギリスの高等教育における PDP①」『文部科学教育通信』No.287,2012

1-4 今年度の目標

(1) 個の活用効果に関する実証

これまで、高校生のキャリアデザイン力の向上や、大学生の就活における活用効果、eメンタ、ふるさと学習推進員等の教育支援人材の地域活動における活用効果など幅広い人材について活用効果を実証してきた。

今年度はこれらに加えて、自らの経験や学びの積み重ねを生かし市民講師として活動する人材が、活動の質向上に役立てることに、eポートフォリオが効果的に利用できることを実証し、学校教育から高等教育、成人に至る幅広い世代における活用効果を実証する。

(2) 学習成果の適切な評価と社会的な通用性に関する実証

個の立場から、自身の学習成果と社会に生かす目標を適切に示すための、振り返りやショーケースへの提示について、実践的に広く活用可能な基準・要領を設計し、その妥当性と改善点を明らかにする。

一方、学習成果を評価する立場から、設計した評価基準の妥当性を検証し、地域人材の認定にふさわしい評価が可能であることを実証する。

この検証では、富山と和歌山で異なる認定組織、対象者であっても、運用モデルが通用することを実証する。

(3) 学習成果の活用の促進と人材の顕在化に関する実証

ショーケースを通じて、個の学習成果を多様に振り返り社会に示す場、機会ができることで、一人ひとりの学習の積み重ねに対する意識の変化が生まれ、自立的な学習と成果の活用が促進されることが期待できる。

また、ショーケースを通じて、地域の学校教育、社会教育、大学、社会教育機関が地域人材として認め合う場、機会ができることで、学習成果を多様な観点から評価し地域人材の顕在化に結びつくことを実証する。

(4) 運用モデルの構築および普及のための課題

学習者が活用するシステムの提供、そのシステムを活用したeポートフォリオの記録と活用、ショーケースの作成と認定の電子申請、地域の産学官による認定組織の構成と認定会の運営、および認定者へのeパスポートの発給、公開など、一連の運営を進める運用モデルとして整備し、富山と和歌山で試行評価を実施する。

また、今後の普及に向けて、ハード面の方策やソフト面の方策について検討し、課題を明らかにする。

2 実証研究の実施

2-1 市民講師によるeポートフォリオ（ティーチング・ポートフォリオ）の活用

市民講師が開催する講座の質の向上を目指して、富山、和歌山それぞれの市民塾あわせて19名の市民講師を対象に、試行的にティーチング・ポートフォリオの活用を行った。

ティーチング・ポートフォリオは、市民講師が開設する講座の企画、運営を通じてPDCAサイクルによる講座の質向上を目指すものであり、今回、以下の図の流れでティーチング・ポートフォリオの活用を行うものとした。

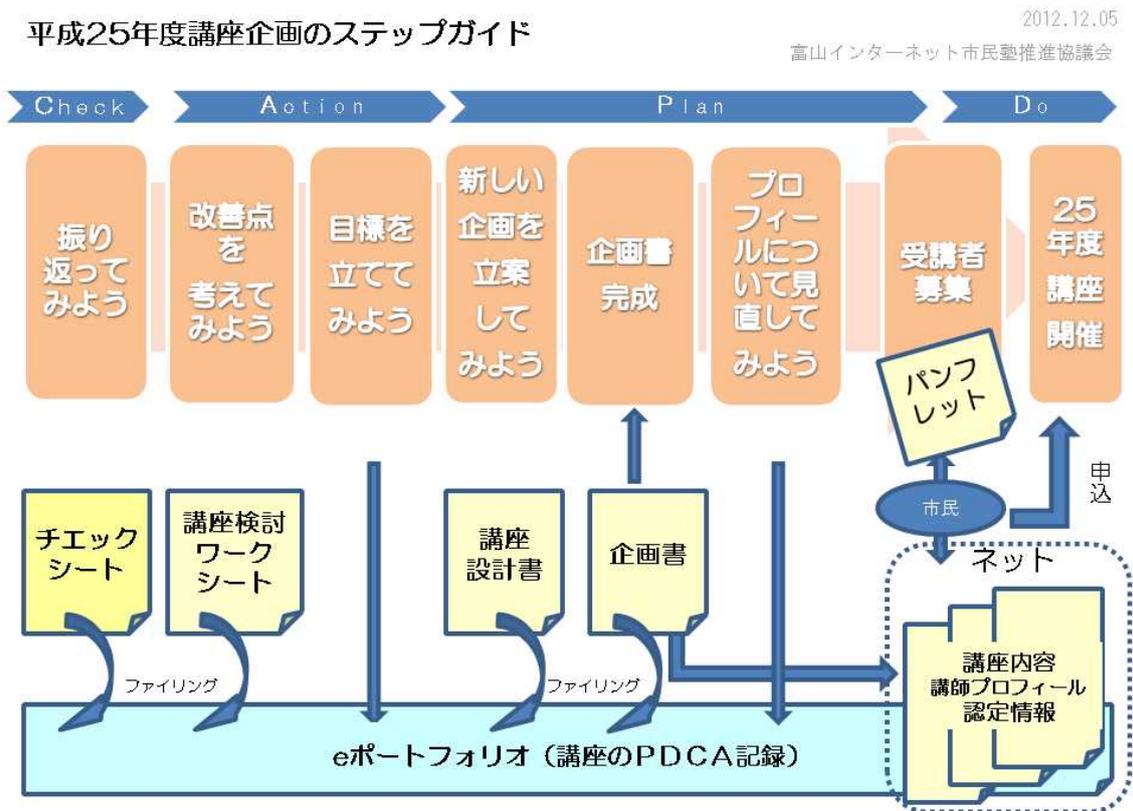
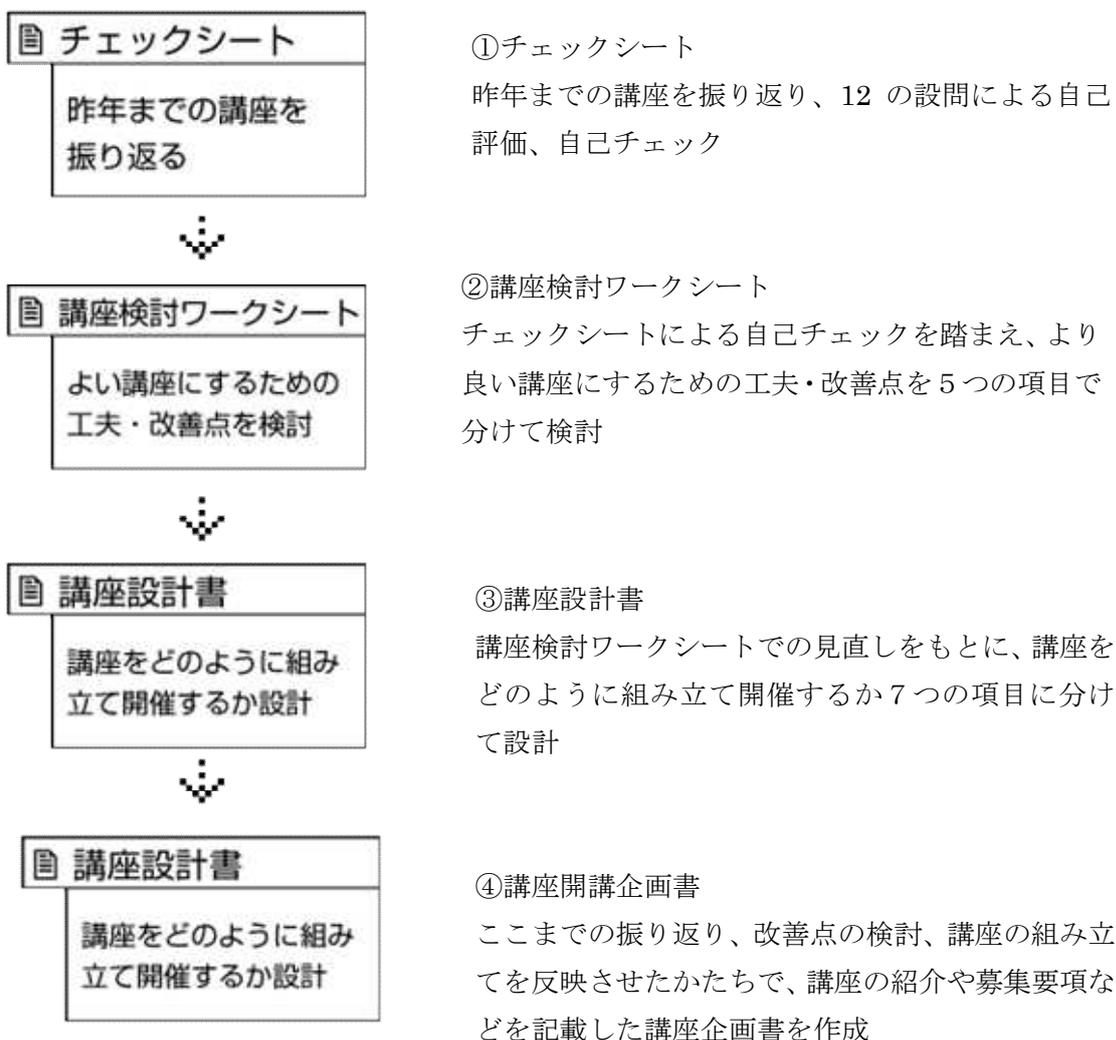


図 5 ティーチング・ポートフォリオ活用の流れ

これらのティーチング・ポートフォリオの活用の流れの中で、これまでの活動の振り返り（Check）、改善点の検討（Action）、平成25年度の講座の企画への反映（Plan）を行うため4つのワークシートを用意した。

【講座企画のための4つのワークシート】



各ワークシートの内容は、以下のとおりである。

① チェックシート（各項目による自己チェック）

1	講座の内容について、当初に考えていた内容通りにできましたか
2	講座の進め方はスケジュール通り進みましたか
3	受講者に満足してもらえる講座になりましたか
4	受講者から得た気づきがありましたか
5	受講者に与えたと思う影響、効果はありましたか
6	教え方、話し方、資料の作り方など新たに努力した点はありましたか
7	教え方、資料作成、受講者とのコミュニケーションなどにおいて IT を生かすことができましたか
8	開講することによって、あなた自身が学んだことはありましたか
9	講座を開講することで、当初考えていたあなた自身の達成感は得られましたか
10	地域・社会に新たに関心を持ったこと、学びたいこと・新たな目標は生まれましたか
11	工夫・改善によって、さらに良い講座にできそうですか

② 講座検討ワークシート（工夫・改善点を記載）

1	<p>講座テーマを見直してみよう</p> <p>あなたの経験・持ち味・得意分野を生かしたテーマ/ 対象としている受講者・地域にニーズがあるテーマになっていますか？ 講座の内容が伝わるテーマの付け方になっていますか？</p>
2	<p>対象とする受講者・参加者が明確か見直してみよう</p> <p>対象とする受講者が明確に絞り込まれていますか？ テーマ、分野、ニーズに対して、どんな人に参加してほしいか、できるだけ明確に想定してみてください。</p> <p>【ヒント】・絞り込む—少数でも共感できる仲間をしっかりと集める ・絞込まない—広くゆるやかな関係で学び合う</p>
3	<p>講座の進め方を見直してみよう</p> <p>無理のないスケジュールを立てていますか？ / 受講者とともに進める講座になっていますか？</p> <p>【ヒント】・知識を得る(講義)/ 体験して納得する(体験)/ 一緒に考える(ワークショップ) の組み合わせをどのようにするか ・ネット(時間の融通) とスクーリング(場を共有) の組み合わせをどのようにするか</p>
4	<p>教材や配布資料の見直しをしてみよう</p> <p>わかりやすいテキストになっていますか？ / 著作権への対応は大丈夫ですか？ / 全部を教材でわかってもらおうとしていませんか？ そのために教材作成に追われていませんか？</p> <p>【ヒント】・掲示板でのやりとりの中で学びを進める/ スクーリングの前の事前準備としての教材/ みんなで作る教材等いろいろな形の教材が考えられます。</p>
5	<p>その他、チェックシートの「いいえ」について見直してみよう</p> <p>講座の振り返りチェックシートで「いいえ」となった項目には改善すべき点があるかもしれません。</p>

③ 講座設計書（講座検討ワークシートの記載内容から、以下の項目に従い講座を設計する）

※わかやまインターネット市民塾では、講座の組み立て方に絞り内容をカスタマイズした

1	テーマとその背景
2	対象者とそのニーズ
3	自身の満足度目標
4	<p>講座の進め方</p> <p>開催パターン(ネット、スクーリング、講義、体験、ワークショップ等の組み合わせ方)</p>
5	教材の用意(何をいつまでに)
6	掲示板の活用
7	開催体制／協力者
8	その他

④ 講座開講企画書（改善および設計書をもとに講座情報を記載）

※わかやまインターネット市民塾では、一部内容を簡略化した

1	講座タイトル
2	カテゴリ
3	開講予定日／閉校予定日
4	開催の動機(自分にとってどのようなことを期待するか)
5	講座紹介
6	講座の到達目標(どのような講座になれば満足か)
7	受講対象者(どのような人に対して講座を開くのか)
8	受講者の到達目標(最終的に受講者にはどのようにしてほしいか)
9	講師氏名または団体名／ E-mail ／ TEL
10	講師プロフィール
11	スケジュール(インターネット公開日／スクーリング開催日)
12	募集定員／募集期間／受講料／スクーリング費用／受講上の注意 他

これらの活用にあたって、富山インターネット市民塾では、平成25年度の講座を開講する予定の市民講師を対象に活用方法の説明を行い、平成24年12月5日から平成25年2月15日に渡って市民講師と事務局スタッフとの間で対話を重ねながら、4つのワークシートの作成と提出を行った。わかやまインターネット市民塾では、平成24年12月17日から平成25年2月8日に渡ってワークシートの作成を進めた。わかやまインターネット市民塾では、ワークシートの提出を義務付けなかった。なお、初めて講座を開講する市民講師には、ワークシートは講座開講のための参考資料とした。

市民講師の活用にあたって工夫したのは、以下の点である。

①チェックシートによる自己評価

市民講師には、昨年までの講座を振り返るところから始めていただいた。市民講師の中には、チェックシートにある具体的な項目でこれまで自己評価することに慣れておらず、深く振り返ることがなかったため、自己評価することに戸惑いがあったが、この振り返りが成果の確認や改善点の発見に繋がった。

②講座検討ワークシートによる改善ポイントの整理と導き出し

チェックシートによる自己評価を踏まえて、講座テーマや対象者、進め方など講座企画に必要なポイントについて具体的に考えてもらった。自分の講座のコンセプトやターゲットについて改めて見直すきっかけにもなり、改善ポイントの整理とその対策を導き出すことを促した。

③実際の講座運営を想定した改善点の反映

講座運営を具体的にイメージし、これまでの講座の改善点をどのように反映するか検討を

促した。この作業により講座開催時には、改善点が期待通りに実施されるか、随時振り返るための資料とすることができた。

④ティーチング・ポートフォリオを反映した講座企画書の作成

講座企画書については、昨年までも作成していたが、今回のティーチング・ポートフォリオによるステップで作成した結果、これまでの企画書と比べてテーマやターゲット、達成目標が明確になり企画書としての完成度が増した。

以上の工夫を通じて、事務局スタッフから市民講師へのサポートにも、質的な向上が期待できるようになった。

2-2 学習成果の提示と地域人材としての評価

2-2-1 学習成果の提示（ショーケースの作成）

市民講師には、自己の活動成果や講師として取り組む姿勢を示すとともに、成果や経歴、目標など4つの項目に分けて自己PRシートを作成し、ショーケースとして提示していただいた。

自己PRシートの作成にあたっては、その内容が開催する講座に申し込もうとする受講者への講師プロフィール情報となることを伝え、わかりやすく記載することを促した。

多くの市民講師がプロフィール情報をまとめることに慣れておらず、記載内容や表現方法について苦勞が見られたため、事務局と市民講師との間でアドバイスや添削を重ねて完成させた。

自己PRシートの記載内容の詳細は以下のとおりである。

		観点	記載内容	
			記載項目	関連情報
成果 市民講師 (地域の教 育人材)とし て、これまで どのような活 動に取り組 み、どのよう な成果が得 られたか	講座の開 催、講 演、講師 活動等	テーマと開催意 義、市民や社会の ニーズ、自身や参 加者の達成度	これまでの活動を振り返って、左記の 観点について成果をまとめてください。 (150字程度)	【チェックシート】 3. 受講者の満足 4. 受講者から得た気づき 5. 受講者への影響、効果 8. 自身が学んだこと 9. 自身の達成感 【講座検討ワークシート】 1. 講座テーマを見直す 2. 受講者・参加者の見直し
	経歴 プロフィー ル	字数制限なし	プロフィール 活動歴(職歴も可)と活動成果 指導歴(職歴も可)、指導実績 資格、スキル、趣味 他	【講座開講企画書】 10. 講師プロフィール

実践力(コンピテンシー) 市民講師として講座やサークル活動を進める実践力	講座の開催、講演、講師活動等	開催方法、講座の進め方、参加者とのコミュニケーション、ICTの効果的な活用	<p>これまで講座を進めるにあたり、少し不足していた部分、力を入れきた内容をまとめてください。(150字程度)</p> <p>※ここで振り返った点は公開はされませんので、率直にお書きください。</p>	<p>【チェックシート】</p> <p>2. 講座の進め方、スケジュール</p> <p>6. 教え方、話し方、資料の作り方</p> <p>7. IT の生かし方</p> <p>11. 工夫・改善</p> <p>【講座検討ワークシート】</p> <p>3. 進め方を見直す</p>
			<p>これから講座を進めるにあたり、特に力を入れていきたいこと、運営に気配りしていきたいことをまとめてください。(150字程度)</p>	<p>4. 教材、配布資料を見直す</p> <p>【講座設計書】</p> <p>4. 講座の進め方</p> <p>5. 教材の用意</p> <p>6. 掲示板の活用</p> <p>7. 開催体制 協力者</p> <p>【講座開講企画書】</p> <p>6. 講座の到達目標</p> <p>8. 受講者の到達目標</p> <p>11. スケジュール</p>
	基礎力	マイポートフォリオの「コンピテンシー・チェック」により自身の基礎力を分析し上記のこれまでの講座の開催、講演、講師活動の根拠として示してください。		
長期目標(ビジョン) 市民講師(地域の教育活動)を通じて目指す目標とプラン	目標	背景、動機、目標、自身の役割、外部への期待、もたらす効果	講座の開催を通じて目指していることをまとめてください(150字程度)	<p>【チェックシート】</p> <p>10. 新たな目標</p> <p>【講座設計書】</p> <p>1. テーマとその背景</p> <p>2. 対象者とそのニーズ</p> <p>3. 自身の満足度目標</p> <p>【講座開講企画書】</p> <p>4. 開催の動機</p>
取り組み(アクティビティ) 講座の開催プラン、活動の計画などビジョンに向けた取り組み	講座 PR	ビジョンとの関連性、取り組み内容	あなたの講座のアピールポイントをまとめてください。(150字程度)	<p>【講座設計書】</p> <p>1. テーマとその背景</p> <p>2. 対象者とそのニーズ</p> <p>【講座開講企画書】</p> <p>5. 講座紹介</p>

作成した自己PRシートは、eポートフォリオシステムでは、下記のように表示される。
【自己PRシート】

> 自己PRシート

タイトル 「市民講師 2013年2月」

氏名

職業 会社員(フルタイム勤務)

認定項目 「市民講師」

自己PRスライド
自己PRスライドプレビュー

★ わたしのビジョン (将来に対する目標や希望です)

- [立山カルデラの自然の驚異と砂防の歴史を学ぶ](#)

★ わたしのコンピテンシー (様々な取り組みや活動を通して、学んだことや身につけた力です)

- 【自分も高める力】 [これまでの講座を振り返り](#)
- 【人間関係を作る力】 [本講座を主催するにあたり](#)

★ わたしのアクティビティ (今取り組んでいる活動です)

- [世界のスイッチバック「トロッコ」乗車体験!](#)

★ わたしの成果 (これまでの取り組みによる実績です)

- [3年目を迎える立山カルデラ砂防探求会](#)
- [経歴・プロフィール](#)

★ わたしの経歴

★ 受講修了講座 (0)	★ 出会った人 (0)	★ 職歴 (0)	★ 短所 (0)
★ 取得資格 (0)	★ 社会活動 (0)	★ 学習・訓練歴 (0)	
★ 読んだ本 (0)	★ 趣味・特技 (0)	★ 長所(自己PR) (0)	

★ プレゼンテーションファイル

- [講座申請企画書\(立山カルデラ・砂防探求会\)](#)
- [講座設計書\(立山カルデラ・砂防探求会\)](#)
- [講座検討ワークシート\(立山カルデラ・砂防探求会\)](#)

⇒ [一覧を見る](#)

Copyright © 地域J(スポーツ研究協議会 All Rights Reserved.

ティーチング・ポートフォリオで作成した4つのワークシートをプレゼンテーションファイル欄にファイリングして、自己PRシートと合わせて提示される。

2-2-2 地域人材としての評価（体制、評価基準、認定）

市民講師には地域人材の認定を受ける意志の確認を経て、地域 e パスポート研究協議会に対し、ショーケースに提示された自己 PR シートやティーチング・ポートフォリオのワークシートを基に、地域人材の認定申請をいただいた。

（1）地域人材認定のための評価体制

以下の地域 e パスポート研究協議会の委員（富山 8 名、和歌山 3 名）に評価委員の委嘱を行い、評価会を実施した。評価委員は、地域人材の顕在化と活動の広がりを支援する関係機関の参加を前提に構成した。

【評価委員】（富山）

加藤 敏久	富山県民生涯学習カレッジ学長
木下 晶	富山県教育委員会参事 県立学校課 課長
黒田 卓	富山大学人間発達科学部教授
中村 啓志	富山県公民館連合会事務局長
平野 富佐	富山県教育委員会 生涯学習・文化財室 室長
山西 潤一	富山大学人間発達科学部教授

【評価委員会】（和歌山）

山口 裕市	（財）和歌山県スポーツ振興財団
鳥淵 朋子	アクト研究室 代表
道本 浩司	NPO法人市民の力わかやま 理事

オブザーバー（共通）

立田 慶裕	国立教育政策研究所生涯学習部統括研究官
道本 浩司	NPO法人市民の力わかやま 理事

（2）評価基準の策定

評価委員会の中で、地域人材認定のための評価基準を検討し、以下の評価基準を策定した。

【評価基準】

評価項目	評価の対象となる情報	評価基準 示されていない(0点)、示されているが内容が不十分(3点)、記載内容が評価できる(5点)		
	スライドへの記載(自由記述)			
自由記述および関連情報をもとに、下記の観点で評価				
成果	これまでの活動を振り返って、左記の観点について成果をまとめてください。(150字程度) プロフィール 活動歴(職歴も可)と活動成果/指導歴(職歴も可)、指導実績/資格、スキル、趣味 他	これまでの活動におけるテーマが、地域住民のニーズや社会の課題に、どのように応えるテーマだったか示されているか		計満点 20
		これまでの活動における参加者の満足度を把握し、その達成度が示されているか		
		これまでの活動における自身の学び、その満足度、新たな目標に結びついたことが示されているか		
		講座の開催、講演、講師活動等の実績や実践機会に結びつく資格、スキル、特技等が示されているか		
自由記述および関連情報をもとに、下記の観点で評価				
実践力(コンピテンシー)	これまで講座を進めるにあたり、少し不足していた部分、力を入れきた内容をまとめてください。(150字程度) これから講座を進めるにあたり、特に力を入れていきたいこと、運営に気配りしていきたいことをまとめてください。(150字程度)	インターネット、ICTを効果的に活用した講座のデザイン、進め方が示されているか		計満点 20
		講師と学習者の関係づくり、学習者間の学びあう関係づくり、チームワークなどをどのように作るか示されているか		
		受講者・参加者の状況を把握し、また自身の状況を考え、計画通り講座を進める工夫が示されているか		
		受講生に分かりやすい教材の作成、資料の用意、それらの著作権等への配慮が示されているか		
自由記述および関連情報をもとに、下記の観点で評価				
長期目標(ビジョン)	講座の開催を通じて目指していることをまとめてください(150字程度)	市民講師として目指している目標は、どのような背景や必然性、効果があるか、具体的に示されているか		計満点 20
		市民講師として目指している目標について、自身取り組む動機、役割が具体的に示されているか		
		目標に掲げたことが、これまでの自身の成果・実績をどのように生かすか示されているか		
		目標達成への道筋(ステップ、期間、協力者等の体制づくり等)が示されているか		

自由記述および関連情報をもとに、下記の観点で評価				
取り組み	あなたの講座のアピールポイントをまとめてください。(150字程度)	開催講座(活動)のテーマについて、成果をどのように生かすかが示されているか		計満点 20
		開催講座(活動)のテーマについて、ニーズをどのように分析し対象者をどのように設定したか示されているか		
		開催講座(活動)によって、目標に掲げたことにどのように効果が得られるのか示されているか		
		開催講座(活動)によって、参加者にどのような結果(理解、事後の活動等)を得ることができるか示されているか		
下記の視点で評価(0~20点の間で採点)				
総合評価		全体を見渡して、地域人材としての可能性を評価してください		計満点 20
申請者へのコメント				合計満点 100

(3) 評価の実施

市民講師から提示されたショーケースについて、各評価委員別にネットを通じた評価を実施した。各評価委員の評価が揃ったのち、評価会を開催し、評価の意見調整を行い、地域人材の認定を決定した。

富山では2回にわたって認定会を実施し、合計11名の市民講師が認定を受けた。うち1回は、第2回地域eパスポート研究協議会の開催に合わせて行った。和歌山では認定会を1回行い、9名の市民講師が認定を受けた。

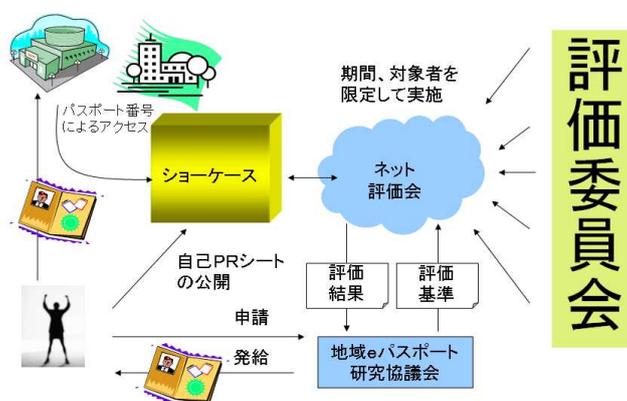


図6 評価・認定とeパスポートの発給